

## 「音の匠」中村啓子さんの朗読公演を聴いて

森 芳久 編集委員

「おかけになった電話は、電源が入っていないか電波の届かない場所にあるため、かかりません」。皆さまおなじみのNTTドコモのアナウンスです。この声とその“音”の魅力がいつしか私の耳と心を捉え、それまで漫然と聞いていたアナウンスの声を意識するようになりました。その声は長年オーディオを生業としてきた私の耳に、あえて個性を抑え明瞭にメッセージを伝え、とても聞きやすく穏やかに響きました。そして、NTTの時報、一部のATMやモノレールの車内案内音声などが同一人物の肉声であり、その声の持ち主が中村啓子さんだと知りました。

この声は中村さんが持って生まれた天性のものでしょうか。しかし、彼女のたゆみない努力と研鑽があればこそ、その声にさらなる磨きをかけ明瞭で優しさを持ち、聞き手の心に癒しをもたらす素晴らしい“音”を生み出したのだと思います。まさにこれは「匠の技」と言ってもよいでしょう。

皆さまご存知のように、当協会では2008年12月6日「音の日」に中村啓子さんを「音の匠」として顕彰いたしました。

彼女は現在もナレーターとして、また後進の育成としてプロフェッショナルナレータースクールOKEIKOを主宰、三浦綾子読書会朗読部門講師をつとめるなど幅広く活躍されています。各地での朗読活動も積極的に行われ、朗読CDに三浦綾子作「氷点」「塩狩峠」「道ありき」（販売：ハーベスト・タイム・ミニストリーズ）などがあります。

その中村啓子さんの朗読公演が去る5月30日に文京シビックホール（小ホール）で行われました。今回の朗読は三浦綾子作「氷点」。三浦綾子の処女作であり長編大作を「音の匠」が朗読で読み説く、それもライブで。

私は、中村啓子さんの朗読CDを2枚持っており、それらを何度も感動しながら聴き返しましたが、ライブで聴いたことはありませんでした。このイベントの知らせを聞いてからとても楽しみにこの日を待ちわびていました。そして当日、会場に近づくにつれその期待感はさらに高まったのです。多くの来場者の方々もまた同じ気持ちだったことでしょう。開場と同時に300名を超す来場者でホールが埋めつくされました。

今回の朗読公演時間は1時間、原作をそのまま全編朗読ということであればとても少ない時間です。しかし、そこには見事な演出がなされていました。元NHKアナウンサーで現在ナレーターの寺内夏樹氏が案内人



朗読公演のパフレット

となり、物語の流れやエッセンスを損なうことなくストーリーの運び役をされたのです。また、舞台上には書斎を模したとてもシックな小道具が設えられ、これがまた作者と読み手の感性を見事に物語ってくれていました。



朗読公演の舞台

冒頭、舞台全体が真っ暗になり観客も一瞬シーンと静まりかえりました。その無音の闇の中から中村啓子さんの朗読の声だけが聞こえ、この物語がスタートしたのです。なんと穏やかで清涼感に満ちた声でしょう。たちまち啓子さんの“声と音”の世界に引き込まれました。やがて、舞台が徐々に明かりを増すとそこはもうすっかり三浦綾子の世界です。しかし、私は時々眼を閉じ、



朗読する中村 啓子さん

彼女の“声と音”に心を傾けました。そして実感しました。朗読においてはどんな視覚的な表現や音響効果も、その素晴らしい肉声には敵わないということ。もちろん当日の映像や音響効果は舞台演出として十分に考えられたものでした。それらは、物語の進行や制作者たちの思いを伝え、観客とのコミュニケーションに役立つものだと思います。しかし、鍛錬された「音の匠」の舞台で息づく肉声ほど観客の心を捉えるものはありません。

私は、今回の朗読会でまた「音の匠」の素晴らしい心と技の世界を知ることができました。そして、それらを感じ取れる人の耳の素晴らしさを改めて感じる事ができたのです。これも「音の匠」からの素敵な贈りものでした。

中村啓子さん、素晴らしい朗読公演、本当にありがとうございました。

読者の皆様にもこの朗読公演の映像を一部ですが、以下に用意いたしました。皆様も素晴らしい「音の匠」の世界を是非お楽しみください。



画像をクリックしてご覧ください

今回の映像につきましては下記の方々にご協力いただきました。ここにお名前をあげて御礼申し上げます。

演出：根本正道様

映像：斎藤仁様

音響：渡辺裕紀様

照明：梅木信良様

美術：田代利之様

構成：森下辰衛様

演出補・制作：宮沢信太郎様

#### <集大成としての『氷点』朗読公演>

中村 啓子

生涯に渡り「生きること、愛すること」を書き続けた三浦綾子さんは、私が最も敬愛する作家です。

その思いを届けたいとの一心で、これまで、朗読 CD 制作や、招かれるままに各地で公演を行って参りましたが、ここへ来て自らの集大成として、都心で身近な方々に代表作『氷点』をお聴きいただきたいとの思いを強くし、自身の主催でこの公演の開催に至りました。

「音の匠」にご顕彰いただきましたことの人々に与える印象は大きく、朗読公演では「音の匠・中村啓子が読む」と銘打たれることが多々ありましたが、自主公演となりますと重責を感じます中、パンフレットに森実行委員長からご寄稿いただきましたことは、望外の喜びでした。

中村啓子さんの朗読 CD など、詳細は下記のリンクよりご検索ください。

朗読CD「氷点」「道ありき」

[http://harvestshop.net/jp/products/list.php?category\\_id=80](http://harvestshop.net/jp/products/list.php?category_id=80)

「私は私らしく生きる」水野源三詩集（写真・中村啓子朗読CD付き）

[http://bp-uccj.jp/publications/?search-class=DB\\_CustomSearch\\_Widget-db\\_customsearch\\_widget&widget\\_number=preset-1&cs-all-0=私は私らしく生きる&search=検索](http://bp-uccj.jp/publications/?search-class=DB_CustomSearch_Widget-db_customsearch_widget&widget_number=preset-1&cs-all-0=私は私らしく生きる&search=検索)